

# Oracle Collaboration Suite パッチ・セット for Sun SPARC Solaris

リリース・ノート

リリース 1 ( 9.0.3 )

2003 年 2 月

部品番号 : J07283-01

---

Oracle Collaboration Suite パッチ・セット for Sun SPARC Solaris リリース・ノート, リリース 1 (9.0.3)

部品番号 : J07283-01

原本名 : Oracle Collaboration Suite Patch Set Release Notes, Version 9.0.3.1.0

原本部品番号 : B10484-01

Copyright © 2003, Oracle Corporation. All rights reserved.

Printed in Japan.

#### 制限付権利の説明

プログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）の使用、複製または開示は、オラクル社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権に関する法律により保護されています。

当プログラムのリバース・エンジニアリング等は禁止されております。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。オラクル社は本ドキュメントの無謬性を保証しません。

\* オラクル社とは、Oracle Corporation（米国オラクル）または日本オラクル株式会社（日本オラクル）を指します。

#### 危険な用途への使用について

オラクル社製品は、原子力、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションを用途として開発されておりません。オラクル社製品を上述のようなアプリケーションに使用することについての安全確保は、顧客各位の責任と費用により行ってください。万一かかる用途での使用によりクレームや損害が発生いたしましても、日本オラクル株式会社と開発元である Oracle Corporation（米国オラクル）およびその関連会社は一切責任を負いかねます。当プログラムを米国国防総省の米国政府機関に提供する際には、『Restricted Rights』と共に提供してください。この場合次の Notice が適用されます。

#### Restricted Rights Notice

Programs delivered subject to the DOD FAR Supplement are "commercial computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs, including documentation, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement. Otherwise, Programs delivered subject to the Federal Acquisition Regulations are "restricted computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs shall be subject to the restrictions in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software - Restricted Rights (June, 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このドキュメントに記載されているその他の会社名および製品名は、あくまでその製品および会社を識別する目的のみ使用されており、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

---

# 目次

<b>はじめに</b>	v
リリース・ノートの構成について	v
マニュアルに記載されている名称について	v
最新情報の入手について	v
<b>1 概要</b>	
このマニュアルの目的	1-2
オペレーティング・システム要件	1-2
オペレーティング・システムのパッチおよびパッケージのダウンロード場所	1-2
Oracle9iAS Infrastructure および Oracle Collaboration Suite 用の必須 Solaris パッチ	1-2
Oracle Collaboration Suite Information Storage 用の必須 Solaris パッチ	1-3
JRE パッチ	1-4
オペレーティング・システム・パッケージおよびフォント・パッケージ	1-4
追加のオペレーティング・システム要件	1-5
<b>2 インストール</b>	
インストール準備	2-2
Oracle Collaboration Suite	2-2
Oracle Email	2-3
Oracle Files	2-3
インストール	2-5
Information Storage	2-5
Infrastructure	2-5
Middle-Tier	2-10
インストール後の作業	2-12
Oracle Email	2-12
<b>3 修正済の不具合</b>	
Oracle Email	3-2
Oracle Internet Directory	3-5
Oracle Files	3-6



---

# はじめに

このドキュメントは、Oracle Collaboration Suite リリース 1 (9.0.3.0.1) に付属するリリース・ノートです。

## リリース・ノートの構成について

このリリース・ノートは英語リリース・ノートの翻訳版です。日本語環境固有の情報については、『Oracle Collaboration Suite for Sun SPARC Solaris リリース・ノート』を参照してください。

## マニュアルに記載されている名称について

Oracle Collaboration Suite 関連マニュアルは、英語版を翻訳しているため、マニュアル中で参照されている情報には、日本では提供されていないものも含まれます。

インターネット URL

マニュアル名

ソフトウェア名

## 最新情報の入手について

日本オラクルでは、インターネット開発者向けのあらゆる技術リソースを、24 時間 365 日提供するコミュニティ・サイト OTN-J (Oracle Technology Network Japan) を運営しています。OTN-J では、最新の技術情報、オンライン・マニュアル、ソフトウェア・コンポーネントなどを、無料で入手できます。

<http://otn.oracle.co.jp/>



# 1

---

## 概要

このマニュアルでは、Oracle Collaboration Suite パッチ・セット リリース 1 (9.0.3) について説明します。

内容は次のとおりです。

- [このマニュアルの目的](#)
- [オペレーティング・システム要件](#)

## このマニュアルの目的

このマニュアルでは、Oracle Collaboration Suite の既知の問題に関するパッチ修正について説明します。  
通常、オラクル社は、テストが完了し統合された製品の修正をパッチ・セットによって配布します。  
パッチ・セットには、特定のエラー修正と、それによって修正されたファイルのみが含まれます。

## オペレーティング・システム要件

- [オペレーティング・システムのパッチおよびパッケージのダウンロード場所](#)
- [Oracle9iAS Infrastructure および Oracle Collaboration Suite 用の必須 Solaris パッチ](#)
- [Oracle Collaboration Suite Information Storage 用の必須 Solaris パッチ](#)
- [JRE パッチ](#)
- [オペレーティング・システム・パッケージおよびフォント・パッケージ](#)
- [追加のオペレーティング・システム要件](#)

## オペレーティング・システムのパッチおよびパッケージのダウンロード場所

次の表に、各プラットフォーム用のオペレーティング・システムのパッチをダウンロードする場所を示します。

表 1-1 オペレーティング・システムのパッチのダウンロード場所

プラットフォーム	ダウンロード場所
Solaris	<a href="http://sunsolve.sun.com">http://sunsolve.sun.com</a> からダウンロード

## Oracle9iAS Infrastructure および Oracle Collaboration Suite 用の必須 Solaris パッチ

次の表に、Oracle9iAS Infrastructure および Oracle Collaboration Suite の最上位インストール・タイプ用に、Solaris にインストールする必要があるオペレーティング・システムのパッチを示します。

表 1-2 Oracle9iAS Infrastructure および Oracle Collaboration Suite

オペレーティング・パッチ システム	
Solaris 2.6	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 最新の推奨パッチ・クラスタ</li><li>■ リンカー・パッチ : 107733-09 以上</li><li>■ /usr/lib/libthread.so.1 パッチ : 105568-23 以上</li><li>■ libaio、libc、watchmalloc パッチ : 105210-38 以上</li><li>■ X Input &amp; Output Method パッチ : 106040-17 以上</li><li>■ OpenWindows 3.6: Xsun パッチ : 105633-59 以上 <sup>1</sup></li><li>■ 中国語の TrueType フォント : 106409-01 以上 <sup>2</sup></li><li>■ SunOS 5.6: ISO 8859-01 ロケールでの致命的エラー発生による ssJDK1.2.1_03 の失敗 : 108091-03 以上 <sup>3</sup></li><li>■ CDE 1.2: libDtSvc パッチ (推奨) : 105669-10 以上</li><li>■ Motif 1.2.7: ランタイム・ライブラリ・パッチ : 105284-45 以上</li><li>■ SunOS 5.6: カーネル更新パッチ (必須) : 105181-30 以上</li><li>■ patchadd および patchrm パッチ : 106125-11 以上</li><li>■ /kernel/drv/mm パッチ : 106429-02 以上</li><li>■ C++ 共有ライブラリ・パッチ : 105591-12 以上</li><li>■ ユーロ・サポート・パッチ : 106842-09 以上および 106841-01 以上</li></ul>

表 1-2 Oracle9/AS Infrastructure および Oracle Collaboration Suite ( 続き )

## オペレーティング・システム

Solaris 7	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 最新の推奨パッチ・クラスタ</li> <li>■ Libthread パッチ : 106980-17 以上</li> <li>■ カーネル更新パッチ : 106541-17 以上</li> <li>■ /kernel/fs/sockfs パッチ : 109104-04 以上</li> <li>■ /usr/lib/fs/fscck パッチ : 107544-03 以上</li> <li>■ Motif ランタイム・ライブラリ・パッチ : 107081-37 以上</li> <li>■ X Input &amp; Output Method パッチ : 107636-08 以上</li> <li>■ OpenWindows 3.6.1 Xsun パッチ : 108376-29 以上<sup>1</sup></li> <li>■ CDE Windows マネージャ・パッチ : 107226-18 以上</li> <li>■ CDE 1.3 libDT Widget パッチ : 108374-05 以上</li> <li>■ zh.GBK ロケールの不正フォント置換用パッチ : 107153-01 以上</li> <li>■ リンカー・パッチ : 106950-16 以上</li> <li>■ C++ 用の共有ライブラリのパッチ : 106300-10 以上および 106327-11 以上</li> <li>■ OpenWindows 3.6.1 libX+ パッチ : 107656-07 以上</li> <li>■ CDE 1.3: dtsession パッチ : 107702-09 以上</li> </ul>
Solaris 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 最新の推奨パッチ・クラスタ</li> <li>■ Xsun パッチ : 108652-37 以上</li> <li>■ CDE dtwm パッチ : 108921-13 以上</li> <li>■ Motif 2.1 パッチ : 108940-37 以上</li> <li>■ Portal および Wireless のパッチ : 112138-01 以上</li> </ul>

<sup>1</sup> このパッチは、Asian ロケールでのみ必要です。

<sup>2</sup> このパッチは、Swing アプリケーションでの繁体字中国語文字の表示にのみ必要です。

<sup>3</sup> このパッチは、ISO 8859-1 または ISO 8859-15 キャラクタ・コードを使用するロケールでのみ必要です。

## Oracle Collaboration Suite Information Storage 用の必須 Solaris パッチ

Oracle Collaboration Suite Information Storage の最上位インストール・タイプには、Solaris にインストールする必要があるオペレーティング・システムのパッチはありません。

## Oracle Real Application Clusters をサポートするためのオペレーティング・システム要件

次の表に、Oracle Real Application Clusters をサポートするために必要なオペレーティング・システムのパッケージおよびパッチを示します。

表 1-3 Oracle Real Application Clusters 用のパッチおよびパッケージ

プラットフォーム	パッケージおよびパッチ
Solaris	racpatch

## JRE パッチ

次の表に、必須または推奨の JRE パッチを示します。

表 1-4 JRE パッチ

プラットフォーム	パッチ	必須または推奨
Solaris 2.6 ( 5.6 )	106040-11 X Input and Output Method パッチ	必須
	105181-15 カーネル・パッチ	必須
	105284-25 Motif ランタイム・ライブラリ・パッチ	推奨
	105490-07 動的リンカー・パッチ	推奨
	106409-01 中国語の TrueType フォント・パッチ ( 1 )	推奨
	105633-21 OpenWindows 3.6: Xdun パッチ ( 1 )	推奨
	105568-13 Libthread パッチ	推奨
	105210-19 LibC パッチ	推奨
	105669-07 CDE 1.2: libDTSvc パッチ ( dtmail )	推奨
Solaris 7 ( 5.7 )	107636-01 X Input and Output Method パッチ	必須
	106980-05 Libthread パッチ	推奨
	107607-01 Motif fontlist、fontset、libxm	推奨
	107078-10 Open Windows 3.6.1 Xsun パッチ ( 1 )	推奨
Solaris 8	なし	なし

## オペレーティング・システム・パッケージおよびフォント・パッケージ

次の表に、Solaris に必要なオペレーティング・システム・パッケージおよびフォント・パッケージを示します。

表 1-5 Solaris に必要なオペレーティング・システム・パッケージおよびフォント・パッケージ

パッケージ・タイプ	必要なパッケージ
オペレーティング・システム	SUNWarc、SUNWbtool、SUNWhea、SUNWlibm、SUNWlibms、SUNWsprout および SUNWtoo
Java 用のフォント・パッケージ	すべてのロケールで SUNWi1of および SUNWxwfont が必要です。ユーザーのロケールで使用されているフォント・スタイルをサポートするには、追加のフォント・パッケージを入手する必要がある場合があります。Solaris のフォント・パッケージのリストについては、次の Web サイトを参照してください。 <a href="http://java.sun.com/j2se/1.3/font-requirements.html">http://java.sun.com/j2se/1.3/font-requirements.html</a>

オペレーティング・システム・パッケージがインストールされているかどうかを確認するには、次のコマンドを入力します。ここで、`os_package` は、確認するオペレーティング・システム・パッケージの名前です。

```
$ pkginfo -i os_package
```

## 追加のオペレーティング・システム要件

次の表に、すべてのプラットフォームに必要な追加のソフトウェアを示します。

表 1-6 追加のオペレーティング・システム要件

ソフトウェア	要件
X サーバーおよび ウィンドウ・マネージャ	<p>UNIX オペレーティング・システムでサポートされている X サーバーを使用します。ユーザーの UNIX オペレーティング・システムでサポートされている、Sun 社製品がサポートするウィンドウ・マネージャを使用します。</p> <p>Hummingbird Exceed には、システム固有のウィンドウ・マネージャを使用します。</p> <p>WRQ Reflections には、リモート・ウィンドウ・マネージャを使用可能にします。</p> <p>X Window System がローカル・システムで適切に動作しているかどうかを確認するには、次のコマンドを入力します。</p> <pre>\$ xclock</pre> <p>モニターに時計が表示されます。</p>
必要な実行ファイル	実行ファイル <code>make</code> 、 <code>ar</code> 、 <code>ld</code> 、 <code>nm</code> が存在している必要があります。



# 2

---

## インストール

この章では、Oracle Collaboration Suite パッチ・セットのインストール方法を説明します。次の項目について説明します。

- [インストール準備](#)
- [インストール](#)
- [インストール後の作業](#)

## インストール準備

Oracle Collaboration Suite パッチ・セットをインストールする前に、必要な準備作業について説明します。

- [Oracle Collaboration Suite](#)
- [Oracle Email](#)
- [Oracle Files](#)

## Oracle Collaboration Suite

- [Oracle インストールのバックアップ](#)
- [変数の設定](#)
- [インストール前に Oracle Enterprise Manager Web Site を停止](#)

### Oracle インストールのバックアップ

次の手順で、Information Storage、Infrastructure および Middle-Tier インストールのバックアップを行います。

1. Oracle ソフトウェアをインストールしたユーザー・アカウントでログインします。root が所有するファイルのバックアップ権限が必要です。
2. Oracle データベースのバックアップを行います。
3. ORACLE\_HOME のバックアップを行います。
4. oraInventory ディレクトリにある Oracle Universal Installer インベントリのバックアップを行います。
  - a. oraInventory ディレクトリに移動します。
  - b. oraInventory ディレクトリとその内容を別のディレクトリにコピーします。  
たとえば、oraInventory.bak です。

---

---

**注意：** Oracle Universal Installer インベントリをリストアするには、oraInventory.bak を oraInventory にコピーします。

---

---

### 変数の設定

次の変数を設定します。

- ORACLE\_HOME
- ORACLE\_SID
- \$ORACLE\_HOME/bin を環境変数 PATH に追加
- \$ORACLE\_HOME/lib:\$ORACLE\_HOME/network/lib を環境変数 LD\_LIBRARY\_PATH に追加

### インストール前に Oracle Enterprise Manager Web Site を停止

---

---

**注意：** Infrastructure を実行中のシステムで、Middle-Tier にパッチ・セットをインストールすると、Oracle Enterprise Manager の構成が失敗します。このエラーは無視して、インストールを続行してください。インストールの完了後、active\_EMD ORACLE\_HOME (active\_EMD は、EMTAB ファイルが指す場所) から Oracle Enterprise Manager を起動してください。

---

---

Oracle9iAS インスタンスが含まれ、Oracle Enterprise Manager Web Site が実行されているマシンにインストールを実行する前に、Oracle Enterprise Manager Web Site を停止する必要があります。

Web Site を停止するには、次のコマンドを実行します。

```
$ORACLE_HOME/bin/emctl stop
```

## Oracle Email

- [書込み権限の確認](#)
- [Oracle Email プロセスの停止](#)

### 書込み権限の確認

Oracle インストールの所有者に、次のファイルに対する書込み権限があることを確認します。

- \$ORACLE\_HOME/um/client/config/statefile.xml
- \$ORACLE\_HOME/um/jlib/um.jar
- \$ORACLE\_HOME/j2ee/OC4J\_UM/applications/UMClientApp.ear
- \$ORACLE\_HOME/jlib/esadmin.jar

### Oracle Email プロセスの停止

---

**注意：** 複数の Middle-Tier と複数のメール・ストアがある場合は、SMTP 受信サーバーを実行するすべての Middle-Tier を同時にアップグレードする必要があります。メールの配信が遅れるため、パッチを適用した SMTP サーバー・インスタンスとパッチを適用していないインスタンスを、同じメール・ストアに対して同時に実行しないでください。この制限は、SMTP 受信サーバーを実行していないその他の Middle-Tier には適用されません。

---

1. SMTP 受信プロセスを停止します。

```
$ORACLE_HOME/bin/oesctl shutdown <hostname>:um_system:smtp_in
```

プロセスが完了したことを示すメッセージが表示されるまで 10 分待ちます。

2. すべての Oracle Email プロセスを停止します。
3. OC4J\_UM インスタンスを停止します。

```
$ORACLE_HOME/opmn/bin/opmnctl stopproc type=oc4j instance=OC4J_UM
```

4. Oracle Internet Directory が実行中であることを確認します。

## Oracle Files

Oracle Enterprise Manager Web Site を使用して、Oracle Files のドメインおよびノードを停止します。

1. ブラウザから次の URL にアクセスします。

```
http://machine:port
```

次に例を示します。

```
http://myserver.mycompany.com:1810
```

2. ポップアップ・ウィンドウに認証情報を入力します。
3. ご使用のインスタンスをクリックします。

ページがリフレッシュされ、すべての iAS コンポーネントが表示されます。

4. Files コンポーネントをクリックします。  
Oracle Files のコンポーネント・ページが表示されます。
5. 「**ドメインの停止**」ボタンをクリックします。
6. 「**はい**」をクリックして確認します。

# インストール

---

**注意：** パッチ・セットを適用する前に、Oracle Collaboration Suite リリース 9.0.3.0.1 をインストールおよび構成する必要があります。

---

インストール時のエラーを回避するために、Oracle Collaboration Suite パッチ・セットを次の順番で適用することをお勧めします。

- [Information Storage](#)
- [Infrastructure](#)
- [Middle-Tier](#)

## Information Storage

---

**注意：** パッチ・セットをインストールする前に、すべての Oracle Email プロセスを停止してください。各プロセスは、`oesctl` コマンドを使用して停止してください。

---

1. 次のいずれかのコマンドを入力して、パッチ・セットから Oracle Universal Installer を起動します。

- `./runInstaller`
- `./runInstallerNLS`

Oracle Universal Installer の「ようこそ」画面が表示されます。

---

**注意：** `runInstallerNLS` コマンドを実行すると、10 か国語のユーザー・インタフェース・サポートがインストールされます。  
`runInstaller` コマンドでインストールされるのは、英語のみのユーザー・インタフェース・サポートです。  
Oracle Collaboration Suite をインストールした時に選択したコマンドに合わせる必要があります。

---

2. 「次へ」をクリックします。

「ファイルの場所」画面が表示されます。この画面には、Information Storage がインストールされている `ORACLE_HOME` の名前と場所が表示されます。表示されない場合は、正しいパスの場所を入力してください。

3. 「次へ」をクリックします。

「サマリー」画面が表示されます。

4. 「インストール」をクリックします。

インストールが完了すると、「インストールの終了」画面が表示されます。

---

**注意：** このパッチのインストール時に実行する構成ツールはありません。

---

## Infrastructure

---

**注意：** パッチをインストールする前に、Infrastructure プロセスを停止しないでください。実行中の Infrastructure インストールの情報は、パッチで収集される必要があります。すべてのプロセスを停止する必要がある場合は、その旨が表示されます。

---

1. 次のいずれかのコマンドを入力して、パッチ・セットから Oracle Universal Installer を起動します。

- `./runInstaller`
- `./runInstallerNLS`

Oracle Universal Installer の「ようこそ」画面が表示されます。

---

**注意:** `runInstallerNLS` コマンドを実行すると、10 か国語のユーザー・インタフェース・サポートがインストールされます。  
`runInstaller` コマンドでインストールされるのは、英語のみのユーザー・インタフェース・サポートです。  
Oracle Collaboration Suite をインストールした時に選択したコマンドに合わせる必要があります。

---

2. 「次へ」をクリックします。

「ファイルの場所」画面が表示されます。この画面には、Infrastructure がインストールされている ORACLE\_HOME の名前と場所が表示されます。表示されない場合は、正しいパスの場所を入力してください。

3. 「次へ」をクリックします。

「Oracle Internet Directory」画面が表示されます。

4. Oracle Internet Directory のスーパー・ユーザーのアカウント名とパスワードを入力します。たとえば、`cn=orcladmin` です。

5. 「次へ」をクリックします。

「Oracle Infrastructure Database」画面が表示されます。

6. データベース SYS ユーザーのパスワードを入力します。このパスワードによって、SYS ユーザーがログインし、データベースを起動できるようになります。SYS ユーザーのデフォルトのパスワードは `change_on_install` です。
7. 「次へ」をクリックします。

---

**注意:** 入力したデータベース SYS のパスワードが正しいことを確認します。パスワードが間違っていると、特定のツールが実行されません。詳細は、「[Oracle Collaboration Suite パッチ・セット・ツールの手動実行](#)」を参照してください。

---

次に進む前に、すべての Infrastructure プロセスの停止を求めるプロンプトが表示されます。

8. すべての Infrastructure プロセスを停止します。

---

**参照:** 停止するプロセスについては、「[Infrastructure プロセスの停止方法](#)」を参照してください。

---

9. 「次へ」をクリックします。

「サマリー」画面が表示されます。

---

**注意:** 停止されていない Infrastructure プロセスがある場合、警告ダイアログ・ボックスに実行中のプロセスが表示されます。実行中のプロセスを停止して、「再試行」をクリックします。

---

10. 「インストール」をクリックします。

`$ORACLE_HOME/root.sh` スクリプトを実行するためのダイアログ・ボックスが表示されます。

11. root アカウントでスクリプトを実行します。

12. 「OK」をクリックします。

構成ツールが起動し、Infrastructure プロセスが起動されます。

インストールが完了すると、「インストールの終了」画面が表示されます。

## Oracle Collaboration Suite パッチ・セット・ツールの手動実行

パッチのインストール時に間違った SYS パスワードが入力された場合、3 つのツールでエラーが発生します。これらのツールを正常に実行するには、次の手順を実行する必要があります。

インストーラを終了し、次の手順を実行します。

1. \$ORACLE\_HOME/ocs\_patch/OCSpatch.log ファイルの先頭に、次のエラー・メッセージが表示されているかどうかを確認します。

```
insufficient privileges
```

このエラー・メッセージは、間違った SYS パスワードが入力されたことを示します。インストーラのユーザー・グループは SYSDBA および SYSOPER グループに配置されているため、SYSDBA としてのログイン時にはどのような SYS パスワードでも入力できます。正しい SYS パスワードを入力しなければ、データベースの起動に必要な権限が提供されないため、パスワードを正確に入力することは非常に重要です。

2. SYSDBA データベース・ユーザーで正しいパスワードを入力して、SQL\*Plus に接続します。

3. \$ORACLE\_HOME/ocs\_patch/OCSpatch.user.sql スクリプトを実行します。

データベースが起動し、データベース・スキーマの更新に必要な SQL\*Plus スクリプトが実行されます。

4. 実行中の oidmon および oidldapd プロセスを停止します。

**表 2-1 Oracle Internet Directory Infrastructure プロセス**

項目	説明
停止コマンド	\$ORACLE_HOME/bin/oidctl server=oidldapd instance=1 connect=infrastructure_connect_string stop
必要な追加操作	なし
関連プロセス	oidldapd  <b>注意:</b> oidctl コマンドの使用後、実行中の oidldapd サーバー・インスタンスがないことを確認してください。次のコマンドを使用して確認します。  ps -ef   grep oidldapd

**表 2-2 Oracle Internet Directory Monitor Infrastructure プロセス**

項目	説明
停止コマンド	\$ORACLE_HOME/bin/oidmon connect=infrastructure_connect_string stop
必要な追加操作	なし
関連プロセス	oidmon  <b>注意:</b> oidmon 停止コマンドを使用する前に、実行中の oidldapd および odisrv インスタンスがないことを確認してください。

5. \$ORACLE\_HOME/bin/oidpatchca.sh スクリプトを実行して、Oracle Internet Directory Patch Configuration Assistant を実行します。

6. 次のコマンドを実行して、opmn および HTTPD プロセスを停止します。

```
$ORACLE_HOME/opmn/bin/opmnctl stopall
```

**表 2-3 OC4J/HTTPD Infrastructure プロセス**

項目	説明
停止コマンド	<code>\$ORACLE_HOME/opmn/bin/opmnctl stopall</code>
必要な追加操作	なし
関連プロセス	opmn、java、httpd

7. 次のコマンドを実行して、OIDDAS の ear ファイルを再配置します。

```
$ORACLE_HOME/jdk/bin/java -classpath
$ORACLE_HOME/lib/xmlparserv2.jar:$ORACLE_HOME/dcm/lib/dcm.jar:$ORACLE_HOME/jlib
/emConfigInstall.jar:$ORACLE_HOME/lib/classes12.zip:$ORACLE_HOME/lib/dms.jar:$ORACLE_HOME
/j2ee/home/oc4j.jar:$ORACLE_HOME/j2ee/home/jaznplugin.jar:$ORACLE_HOME/lib
/xschema.jar:$ORACLE_HOME/opmn/lib/ons.jar:$ORACLE_HOME/dcm/lib/oc4j_deploy_tools.jar
-Doracle.ias.sysmgmt.logging.logdir=$ORACLE_HOME/j2ee/home/log
oracle.j2ee.tools.deploy.Oc4jDeploy
-oraclehome $ORACLE_HOME -verbose -redploy -infile
$ORACLE_HOME/j2ee/deploy.ini
```

8. 次のコマンドを実行します。

```
$ORACLE_HOME/opmn/bin/opmnctl start
$ORACLE_HOME/opmn/bin/opmnctl startproc type=ohs
$ORACLE_HOME/opmn/bin/opmnctl startproc type=oc4j
instancename=OC4J_DAS
```

opmn、httpd プロセスおよび DAS OC4J インスタンスが起動します。

## Infrastructure プロセスの停止方法

Infrastructure プロセスの停止方法を示します。

**表 2-4 Enterprise Manager Infrastructure プロセス**

項目	説明
停止コマンド	<code>\$ORACLE_HOME/bin/emctl stop</code>
必要な追加操作	ias_admin パスワードを入力して、EM を停止する。
関連プロセス	perl

**表 2-5 Webcache Infrastructure プロセス**

項目	説明
停止コマンド	<code>\$ORACLE_HOME/bin/webcachectl stop</code>
必要な追加操作	なし
関連プロセス	webcached、webcachemon

**表 2-6 Directory Intregation Server Infrastructure プロセス**

項目	説明
停止コマンド	<code>\$ORACLE_HOME/bin/oidctl server=odisrv instance=1</code> <code>connect=infrastructure_connect_string stop</code>
必要な追加操作	なし

表 2-6 Directory Intregation Server Infrastructure プロセス ( 続き )

項目	説明
関連プロセス	<p>odisrv</p> <p><b>注意:</b> oidctl コマンドの使用後、実行中の odisrv サーバー・インスタスがないことを確認してください。odisrv サーバーを停止するには最大 2 分かかります。</p> <p>同じ oidctl コマンドを実行して odisrv を停止すると、次のメッセージが表示されます。</p> <p>「実行していないインスタスは停止できません。」</p> <p>2 分たっても odisrv サーバーが停止しない場合は、次のコマンドを使用して停止します。</p> <pre>\$ORACLE_HOME/ldap/odi/admin/stopodiserver.sh -LDAPhost hostname -LDAPport portnumber -binddn "cn=orcladmin" -bindpass password -instance instance number -clean</pre>

表 2-7 データベース Infrastructure プロセス

項目	説明
停止コマンド	<p><code>\$ORACLE_HOME/bin/sqlplus</code> を使用して、SYS ユーザーで RDBMS にログインします。</p> <p>例: <code>"\$ORACLE_HOME/bin/sqlplus sys/change_on_install as sysdba"</code></p> <p>SQL*Plus プロンプトで、停止コマンドを実行します。</p>
必要な追加操作	なし
関連プロセス	<p>すべての ora_* プロセス</p> <p><b>注意:</b> データベースの停止後、共有メモリー・セグメントが残っていないことを確認します。</p> <p>次のコマンドを使用して、残っている共有メモリー・セグメントを確認し、削除します。</p> <p>次のコマンドで確認します。</p> <pre>ipcs</pre> <p>次のコマンドで削除します。</p> <pre>ipcrm</pre>

表 2-8 TNS リスナー Infrastructure プロセス

項目	説明
停止コマンド	<code>\$ORACLE_HOME/bin/lsnrctl stop</code>
必要な追加操作	なし
関連プロセス	tnslsnr

## Middle-Tier

---

**注意：** パッチをインストールする前に、すべての Middle-Tier プロセスを停止してください。

---

1. 次のいずれかのコマンドを入力して、パッチ・セットから Oracle Universal Installer を起動します。

- `./runInstaller`
- `./runInstallerNLS`

Oracle Universal Installer の「ようこそ」画面が表示されます。

---

**注意：** `runInstallerNLS` コマンドを実行すると、10 か国語のユーザー・インタフェース・サポートがインストールされます。`runInstaller` コマンドでインストールされるのは、英語のみのユーザー・インタフェース・サポートです。  
Oracle Collaboration Suite をインストールした時に選択したコマンドに合わせる必要があります。

---

2. 「次へ」をクリックします。

「ファイルの場所」画面が表示されます。この画面には、Middle-Tier がインストールされている `ORACLE_HOME` の名前と場所が表示されます。表示されない場合は、正しいパスの場所を入力してください。

3. 「次へ」をクリックします。

すべての Middle-Tier プロセスの停止を求める画面が表示されます。

4. すべての Middle-Tier プロセスを停止します。

---

**参照：** 停止するプロセスについては、「[Middle-Tier プロセスの停止方法](#)」を参照してください。

---

5. 「次へ」をクリックします。

「サマリー」画面が表示されます。

---

**注意：** 停止されていない Middle-Tier プロセスがある場合、警告ダイアログ・ボックスに実行中のプロセスが表示されます。実行中のプロセスを停止して、「再試行」をクリックします。

---

6. 「インストール」をクリックします。

`$ORACLE_HOME/root.sh` スクリプトを実行するためのダイアログ・ボックスが表示されます。

7. root アカウントでスクリプトを実行します。

次のエラーが出力される場合がありますが、無視して構いません。

```
su:ID が不明です。:unison
```

8. `root.sh` スクリプトが完了したら、「OK」をクリックします。

構成ツールが起動し、Middle-Tier プロセスが起動されます。インストールが完了すると、「インストールの終了」画面が表示されます。

構成ツールの実行中に `webcal.ini` が存在しないというメッセージが出力される場合がありますが、無視して構いません。

## Middle-Tier プロセスの停止方法

Middle-Tier プロセスの停止方法を示します。

表 2-9 Enterprise Manager Middle-Tier プロセス

項目	説明
停止コマンド	<code>\$ORACLE_HOME/bin/emctl stop</code>
必要な追加操作	ias_admin パスワードを入力して、EM を停止する。
関連プロセス	perl

表 2-10 Webcache Middle-Tier プロセス

項目	説明
停止コマンド	<code>\$ORACLE_HOME/bin/webcachectl stop</code>
必要な追加操作	なし
関連プロセス	webcached、webcachemon

表 2-11 OC4J/HTTPD Middle-Tier プロセス

項目	説明
停止コマンド	<code>\$ORACLE_HOME/opmn/bin/opmnctl stopall</code>
必要な追加操作	なし
関連プロセス	opmn、java、httpd

Oracle Email、Oracle Files プロセスの停止手順については、次のコンポーネント固有の管理者ガイドおよびリファレンス・ガイドを参照してください。

表 2-12 プロセスの停止に関する説明の参照先

コンポーネント	参照先
Oracle Email	『Oracle Email 管理者ガイド』の第 4 章「サーバーおよびプロセス」
Oracle Files	『Oracle Files 管理ガイド』の第 4 章「基本管理操作」

## インストール後の作業

Oracle Collaboration Suite パッチ・セットをインストールした後、次の作業が必要です。

### Oracle Email

- [重複なしフラグ属性の設定](#)
- [orclmailuserdldn 属性の索引の再作成](#)

#### 重複なしフラグ属性の設定

1. Oracle Internet Directory 管理ツール (oidadmin) を使用して、リスト・サーバーのデフォルト・エントリに移動します。

リスト・サーバー・エントリの DN は次のとおりです。

```
cn=<hostname>:um_system:list,cn=mailProcessConfig,cn=eMailServer,cn=  
=<oracle_home>,cn=<hostname>,cn=Computers,cn=OracleContext
```

2. このエントリの orclmailprocflags 属性を次のように設定します。

orclmailprocflags 属性を表示するには、Oracle Internet Directory Manager の表示プロパティ・オプションに「すべて」を選択する必要があります。

```
-do_duplicate_checks
```

この操作は、リスト・サーバー・プロセスのデフォルト・エントリ、またはリスト・サーバー・インスタンスの各エントリに対して実行する必要があります。

#### orclmailuserdldn 属性の索引の再作成

---

**注意：** 複数のメール・ストアと複数の Middle-Tier がある場合は、手順 1 ~ 5 を 1 回のみ実行してください。

---

1. 環境変数 LC\_ALL と LANG の設定を解除します。この手順は、英語環境のユーザーには必要ありません。

---

**注意：** 以下の作業は Middle-Tier の Oracle ホームで実行します。

---

---

**注意：** catalog.sh を実行するには、Oracle Internet Directory のデータベース・ユーザー (ODS)・パスワードが必要です。デフォルトのパスワードは ods です。

---

2. Oracle Internet Directory で、orclmailuserdldn 属性の既存の索引を削除します。

```
$ORACLE_HOME/ldap/bin/catalog.sh -connect  
infrastructure_database_connectstring -delete -attr orclmailuserdldn
```

3. Oracle Internet Directory で、orclmailuserdldn 属性の索引を再作成します。

```
$ORACLE_HOME/ldap/bin/catalog.sh -connect  
infrastructure_database_connectstring -add -attr orclmailuserdldn
```

4. 環境変数 LC\_ALL と LANG を元の値に戻します。この手順は、英語環境のユーザーには必要ありません。
5. Oracle Internet Directory を停止して再起動します。

6. ディレクトリを変更します。

```
cd $ORACLE_HOME/oes/install/sql
```

7. SQL\*Plus を実行します。

8. nolog として接続します。

```
sqlplus /nolog
```

9. 各メール・ストアに対して um9032\_install.sql を実行します。

この際、Information Storage のメール・ストア用データベース・インスタンスを起動しておく必要があります。

10. ディレクトリを変更します。

```
cd $ORACLE_HOME/opmn/bin
```

11. OC4J\_UM インスタンスを再起動します。

```
opmnctl restartproc type=oc4j instancename=OC4J_UM
```

12. Oracle Email プロセスを再起動します。



---

## 修正済の不具合

この章では、パッチ・セットで修正された不具合について説明します。ここでは、次の項目について説明します。

- [Oracle Email](#)
- [Oracle Internet Directory](#)
- [Oracle Files](#)

## Oracle Email

次に、パッチ・セットで修正された Oracle Email の不具合を示します。

表 3-1

エラー番号	説明
2596691	ハウスキーパのブルーニングで、メッセージ本文が欠落する場合があります。
2577832	CC フィールドで、韓国語が正確に表示されません。
2573638	ごみ箱が使用不可の場合、メッセージ・ビューでメッセージを削除しても、次のメッセージが表示されません。
2567565	リスト・サーバーで生成されたリスト ID ヘッダーは、RFC 2822 に準拠しません。
2562556	IMAP サーバーでは、韓国語を含むフォルダ名はサポートされません。
2553189	SMTP In Max Message Size パラメータでは、メッセージ・サイズ制限がありません。
2543309	電子メール・メッセージを HTML 形式で開くと、STRINGINDEXOUTOFBOUNDSEXCEPTION が発生します。
2534867	エンベロープ・フェッチ・パラメータでエラーが発生した場合でも、送信サーバーはメールを継承します。
2533536	アドレスに等号 (=) が含まれる場合、送信サーバーはメール・アドレスを間違えて解析します。
2533187	エンベロープの戻りパスの末尾に改行が含まれる場合、ローカル・リレーは失敗します。
2531370	「音声/FAX ユーザーの追加」ページで、ワイルドカード検索に使用するアスタリスク (*) は変換されません。
2528257	返信メッセージが添付ファイルとして送信された場合、添付ファイルが欠落します。
2526105	添付ファイルを含むメッセージを転送すると、添付ファイルが欠落します。
2525956	英語のメッセージが表示されません。
2523077	メール・リストのサブスクリプション確認ページのボタンが機能しません。
2523066	サブスクライブ・メール・リストおよび非サブスクライブ・メール・リストの確認メッセージが変換されません。
2520627	2 人のユーザー間で交換された自動返信メッセージでループが発生します。
2519731	音声/FAX 作業環境の添付拡張が欠落します。
2515949	Netscape Navigator 4.7x では、空白が含まれるフォルダ名を開けません。
2515612	特殊なフォルダとしてサブフォルダを使用することはできません。
2513950	SMTP 送信サーバーは、メッセージ・サイズ・エラーを一時的なものとして処理します。
2512661	拡張検索で利用できる日付書式はローカライズされていません。
2512659	拡張検索 Java スクリプトには、ハードコードされた文字列が含まれています。
2512372	メッセージの日付書式はローカル書式では表示されません。
2509330	メール・ストアの DN が変更された場合、プロセス管理 API は、メール・ストアの作業環境の作成に失敗します。
2508718	Web Client では、前のページですべてのメッセージが削除されると、そのページは表示されません。
2506364	フィルタ条件の送信日付書式はローカル書式では表示されません。
2505850	共有フォルダ・オプションのセクションは変換されません。
2505848	次のメッセージ機能および前のメッセージ機能では、読み込み済のメッセージにはマークが付きません。
2504058	デフォルトのロケールが英語以外の場合に SSO 画面で英語を選択すると、英語のリソース・バンドルが検索されません。

表 3-1 ( 続き )

エラー番号	説明
2503862	受信ボックス・フォルダ名は変換されません。
2491610	サブフォルダを持つマルチバイトのフォルダは開けません。
2473210	特殊文字を含むフォルダ名は開けません。
2473164	転送されたメッセージにイメージを挿入すると、イメージが破損します。
2473153	ドラフト・フォルダに格納されていたメッセージは、送信後に削除する必要があります。
2472997	メッセージの優先順位が表示されません。
2472917	配信されずに戻されたメールで問題が発生します。
2465955	マルチバイトのファイル名を含む添付ファイルが破損しています。
2455897	名前を指定せずにリストを作成すると、STRINGINDEXOUTOFBOUNDSEXCEPTION が発生します。
2447611	添付ファイルとしてメッセージを追加すると、ヘッダーが空になり、配列に失敗します。
2442794	メッセージ・ビューでメッセージを削除すると、メッセージが破損します。
2442179	構成および受信済のメッセージでは、フォント・サイズに一貫性がありません。
2418506	アカウントが割当て制限を超えると、割当て制限を超えたメッセージはログイン時に表示されなくなります。
2332706	権限受領者の権限は変更できません。
2528979	メール作成用の Web エディタに、表を作成する関数を追加します。
2533489	転送された元のメールに添付されたファイルが欠落します。
2533492	メールのメイン・メッセージを印刷する関数。
2555970	電子メール内のハイパーリンクでは、新しいブラウザ・ウィンドウが表示される必要があります。
2566800	有効期限の書式に関する情報が表示されます。
2600291	添付ファイルをローカル・ドライブに保存できません。
2611661	承認後のモデレートされたリストは、重複するメッセージを確認しません。
2631736	リストにメッセージが送信され、あるメンバーが自動返信を有効にすると、ループが発生します。
2629926	HTML 形式のみで送信されたメッセージは処理されません。
2611525	ある変更者がメールをポストすると、メールの承認が他の変更者に送信されます。
2608475	編集されたリストでは、リストにサブスクライブされたすべてのユーザーがメールを送信できます。
2590083	リスト・サーバーは、サブスクライブ・コマンドを処理しません。
2621566	フォルダのプロパティを保持した日付ベースのメッセージの有効期限が機能しません。
2589175	受信ボックスのロックによってシステムの処理速度が下がり、ロックが解除されるまで、すべてのメール配信が停止します。
2625815	メッセージの取得時、ORA-01555 メッセージが表示されます。
2627545	同じポートで複数のリスナーが実行している場合、サーバーは再登録できません。
2619000	行が 4KB 未満の場合、SMTP 受信サーバーがクラッシュします。
2567195	韓国語の Internet Explorer では、パラグラフ・オプションは機能しません。
2617895	クライアントによって作成および拡張された画面でメールへのリンクを作成し、リンクをクリックすることによって、Oracle Email で電子メールの本文に直接アクセスできる新機能。
2620124	韓国語で「返信する」、「全員に返信する」または「転送する」機能を使用すると、電子メールの本文が表示されません。

表 3-1 ( 続き )

エラー番号	説明
2618223	HTML で返信または転送すると、元のメッセージが破損します。
2627877	添付または引用機能を使用すると、編集した本文および元の本文が添付ファイルとして送信されます。
2620127	削除されたメッセージをリストアすると、メール・ヘッダーのリストに削除マークが残ります。
2627913	空のフォルダまたは移入されたフォルダを削除しても、警告は表示されません。
2483122	リストに電子メールを送信すると、エラー・メッセージが表示されます。
2626038	韓国語では、ドラフト・フォルダのメッセージ本文が破損します。
2625065	HTML エディタの使用時、テキスト・カーソルがコンテンツ・ボックスになく、コンテンツ・ボックスの内容が選択されていない場合、リンク、イメージおよび表がコンテンツ・ボックスの外に追加されます。
2643041	編集ボックスでカーソルをクリックしない場合、エディタの外に表が作成されます。
264304	Web メールによって、表のセルにデフォルトのデータが移入されます。
2636768	「すべてのフォルダ」画面では、サブフォルダは表示されず、削除できません。
2627883	元のメッセージに添付されたファイルは、元のメッセージへの返信時にオープンできません。
2649438	返信メッセージまたは転送メッセージが添付ファイルとして送信された場合、元のメッセージは破損します。
2633485	2 行の HTML 署名が 1 行で表示されます。
2625690	中国語口ケールのメッセージは送信できません。
2649253	返信メッセージが添付ファイルとして送信された場合、Java 例外メッセージが表示されます。
2627898	電子メール・テンプレートを使用して電子メールを構成および送信すると、そのテンプレートが削除されます。
2625766	添付ファイルを追加した後、メッセージの優先順位が高から標準に変更されます。
2625868	上方および下方への「下書きに保存」および「テンプレートとして保存」ボタンの同期がとれません。
2608291	ASCII 以外のファイル名を指定したファイルを表示または保存すると、ファイル名が一時的な形式に変更されたり、ビュー添付に変更されます。
2627822	「検索結果」画面から受信ボックスに戻ると、エラーが表示されます。
2638751	下書きまたはテンプレート機能を使用して電子メールを送信すると、韓国語の受信者名が破損します。

# Oracle Internet Directory

次に、パッチ・セットで修正された Oracle Internet Directory の不具合を示します。

表 3-2

エラー番号	説明
2527345	<p>名前による DAS 検索が可能になりました。このエラー修正には、パッチをインストールした後、DAS クライアント・マシンごとに手動の手順が必要です。People Search 結果表の列数を制御する新しいパラメータを \$ORACLE_HOME/ldap/das/das.properties ファイルに追加する必要があります。次の行を、このファイルの末尾に追加します。</p> <pre>TABLE_SUMMARY true</pre> <p>この行を前述のファイルに追加すると、DAS では、OID 9.0.2 で表示される Name および Email 列の他に、First Name、Last Name、Title および Telephone Number 列が表示されます。表示された列名は、今後のリリースでカスタマイズ可能になる予定です。この手順は、前述のエラー修正が必要ない場合は任意です。</p>
2225786	検索におけるパフォーマンス dn の選択性。
2441157	型 (& (mail=*) (  (sn=tan) (sn=smith))) のフィルタ。
2334728	サブスクライバの追加 / 削除 / 再追加。
2437872	LDAP スキーマが Oracle Collaboration Suite 用に変更されます。
2442514	tombstone 属性を指定すると、オブジェクト・クラスが変更されます。
2120725	Oracle Internet Directory Server のプラグイン構成エントリがリフレッシュされます。
2445584	サーバー管理エントリの作成によって、スキーマの変更が確認されます。
1900178	LDAP サーバーは、特定の IP アドレスのポートにバインドできます。
2400998	カタログ属性の名前が 27 文字を超えています。
2175280	bulkload.log がパージされました。
2138864	(!... ではなく ( フィルタを含む ldapsearch。
2385093	Oracle Internet Directory のレプリケーションおよび変更ログの整合性。
2150432	マルチバイトの orclpasswordattribute サポート。
2432894	Windows における LDAP サーバーの信頼性。
2456517	Oracle Collaboration Suite 用にカレンダーを容易にインストールできる権限。
1399887	255 文字を超える dn 値のサポート。
2197620	特殊文字「%」および「_」を含むエントリまたは属性の ldapsearch。
2314755	エンコードされたバイナリ属性値の先行 NULL はバルクロードされません。
2392901	acp がエントリに添付された場合、エントリの削除はレプリケートされます。
2349893	Oracle Internet Directory のレプリケーション診断。
2473256	bulkload.sh - チェック・オプションのエラー・レポート。
2321574	Oracle Internet Directory で作成され、iplanet で削除されたエントリが同期化されます。
2388632	Dip サーバー・インスタンスのステータスが emd 画面に表示されます。
2416346	Dip サーバーが、タグ付きのインタフェースを使用して同期化されたデータに対し、moddn 操作を実行します。
2447643	証明書の同期。
2458519	サブスクライバ用のサブスクライバ作成スクリプトがルートの直下に定義されています。
2407491	URL から DAS ページにパラメータが渡されます。
2470418	パスワードの変更が DAS 内で外部認証のプラグイン用にサポートされています。

表 3-2 ( 続き )

エラー番号	説明
2465107	orcldefaultprofilegroup が削除された場合の event_ntfy の属性値です。
2485762	iplanet に伝播されたサブタイプ属性。
2495547	user.authenticate() によって、サーバーから適切な LDAP エラー・コードが戻されます。
2495261	インストール / アップグレード時に発行されたスキーマ / レプリケーション警告。
2499991	マルチサーバーの Oracle Internet Directory が、必要な属性を指定した 1 レベル検索でエントリを戻します。
2471964	複数ノードでのバルクロードの実行時に、索引が作成されました。
2522977	LDAP ディスパッチャによって、LDAP サーバー・プロセスが続行されます。
2517788	ユーザー検索で表示された列名。
2517985	DAS によって、Oracle Internet Directory Server の起動または停止が続行されます。
2527345	名前による DAS 検索が可能になりました。
2520744	ldapsslsocketfactoryimpl.java パラメータが getDefault() を実装します。
2290921	DAS: 言語リスト・ボックスに表示された言語。
2170435	編集グループには、十分な権限を持つグループのみ表示されます。
2583711	ワイヤレス通知にはガイドが含まれません。
2451739	DAS ユーザーは DAS でタイムゾーン設定を変更できる必要があります。
2558211	bulkmodify パラメータで、オブジェクト・クラス属性の変更が可能である必要があります。
2349893	Oracle Internet Directory のレプリケーション診断 : レプリケーション管理ツール REMTOOL を使用すると、既存のレプリケーション設定にある問題を診断できます。問題を診断できるオプションが 2 つあります。1 つは問題の検出と報告に役立ち、もう 1 つは問題の検出と調整に役立ちます。 REMTOOL のその他のオプションはサポートされていません。 REMTOOL の使用方法 : remtool {-asrverify -asrrectify} [-v] [-connect <レプリケーション管理者名>/<パスワード>@<接続識別子>] -asrverify: OID レプリケーション設定の問題を検出して報告します。 -asrrectify: OID レプリケーション設定の問題を検出、調整および報告します。 -v: 冗長モード -connect: 分析対象であるディレクトリ・レプリケーション・グループの一部であるマスター定義サイト (MDS) またはリモート・マスター・サイト (RMS) の接続詳細情報。

## Oracle Files

次に、パッチ・セットで修正された Oracle Files の不具合を示します。

表 3-3

エラー番号	説明
2663301	大きなファイルを SMB、AFP および NFS プロトコル・サーバーで編集および保存すると、データが壊れる可能性がある。